

吉川吉美先生と内藤いづみ先生の講演と対談

ありのままの自分を生きる

～ 自分らしさを受け入れて生きぬくヒント～

心理臨床と在宅ホスピスの現場から毎日の暮らし
に生かす知恵を学ぶところとからだのセルフケア

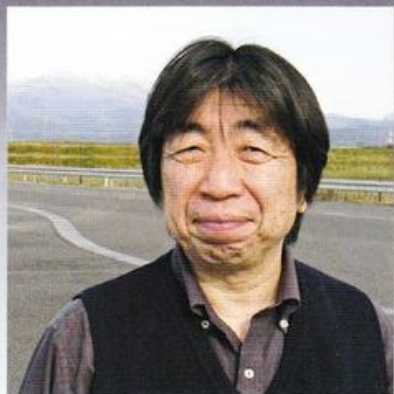
日 時・2011年4月17日(日) 午後1時半～4時

会 場・山梨県立文学館講堂

入場料・1,000円 どなたでもご参加いただけます

チケット購入・お問い合わせ 090-6932-8700 (事務局直通) メール kameya@ubcnet.jp

主 催：臨床動作法山梨研修会



吉川 吉美 (よしかわ よしみ)

愛知学院大学心身科学部心理学科教授
日本心理臨床学会理事
日本臨床動作学会常任理事
日本催眠医学心理学会理事
日本ブリーフサイコセラピー学会理事ほか
岐阜県郡上市出身。

愛知学院大学卒業後、愛知県立心身障害児療育センター心理員として勤務。30年にわたり、発達心理相談に従事。平成14年、活動の現場を秋田県に移し、吉川心理相談室開設。同時に秋田県スクールカウンセラー、秋田県児童相談所アドバイザー、東北電力株式会社秋田支店専任カウンセラーとして活動。また、秋田大学大学院にて修士号取得。その後、福島県いわき市に移り、いわき明星大学人文学部心理学科教授・心理相談センター長に着任。現在も、教鞭をとる傍ら、豊富な臨床経験を生かして幅広い地域援助活動に精力的に取り組む。

心理療法の一つである臨床動作法では、人のからだの動きー「動作」をその人の生き方、物事への処し方のあらわれー「体験様式」とみて、姿勢やからだの動き、左右差などに着目しながらこのありようを理解していきます。治療では、本人も気づかない姿勢や動きの癖の中にある、慢性的な緊張を緩めることで変化をもたらしていきます。脳性まひの方への訓練方法として誕生した臨床動作法が、自閉症・うつ病・統合失調症などの精神症状や、脱毛、肩こりなどの心身症状、さらには子育て・家族支援現場など、活用の幅をどんどん広げ、アジアを中心に海外にも広がりを見せています。



内藤 いづみ (ないとう いづみ)

ふじ内科クリニック院長
NPO 日本ホスピス・在宅ケア研究会理事
(財) 青少年協会理事ほか

山梨県市川三郷町(旧六郷町)出身。
福島県立医大卒業後、東京女子医大内科等に勤務。昭和61年から英国のホスピスで研修を受ける。平成7年にふじ内科クリニック開業。平成14年、15年にNHK教育テレビのETV2002、TV2003で医療活動が放送される。テレビ山梨『あなたを家で看取りたい～在宅ホスピス医 内藤いづみ～』2007年日本放送文化大賞 最優秀賞受賞。著書に『笑顔で「さよなら」をー在宅ホスピス医の日記から』(KKベストセラーズ)、『しあわせの13粒』『最高に幸せな生き方 死の迎え方』(オフィスエム)、『あなたがいてくれる』『いのちの話がしたい』『いい医者 いい患者 いい老後』(佼正出版)『いのちのレッスン』(雲母書房)など多数。

ホスピスの語源はホスピタリティー(温かなもてなし)、相手を受け入れ尊重すること。ホスピスケアとは、患者さんを一人の人間として尊重し、家族とともに支えあうチーム活動です。お互いが与え合い、学びあう関係。笑顔も涙も包み込む安らぎのある場では、みんなのいのちがいつそう輝きます。「いのちに限りがある」という事実にあらためて気づくとき、それを見つめながら、周りとの関わりを深めていく…「ごめんなさい」「ありがとう」「さよなら」を言える最期。そんな最期が迎えられるよう、患者さんと家族を支え、つないでいくのがホスピスケアです。